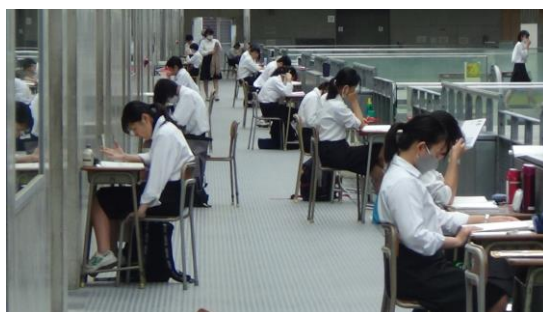


進路指導室から 第300号

はじめに

10月に入りました。今年度も残すところあと半年です。

さて、右の写真は、10月1日（木）の様子です。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、廊下で机を出して勉強に取り組む生徒は多くはなかったのですが、やっと毎年恒例の光景を目にするようになりました。「受験は団体戦」。この言葉は時代遅れのように感じられるかもしれませんが、同じ学校の仲間が頑張っている姿は大きな力となっているはずです。1月16日（土）・17日（日）に実施される大学入学共通テストまであと100日あまり。切磋琢磨しながら前に進んで欲しいと思っています。



※ 基町高校の廊下は吹き抜けになっています。

「全校集会での講話」について

10月5日（月）の始業式後の全体集会の講話で、以下のことを話しました。

2021年度入試から入試のタイプの名前が変わります。入試のタイプは3つありますがこれまでは、「推薦入試」、「AO入試」、「一般入試」と呼ばれていました。2021年度入試からは、それぞれ、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「一般選抜」と呼ばれようになります。このうち、「総合型選抜」は、9月15日から出願が始まりました。いよいよ本格的な受験シーズンへと移行していきます。

さて、「総合型選抜」を実施する大学は、総合型選抜に独自の名前をつけて差別化を図っています。例えば、広島大学は「光り輝き入試」、お茶の水大学は「フンボルト入試」、神戸大学は「志入試」と呼ばれています。

その中に、現在は名称が変わりましたが、「世界適塾入試」というのがありました。ところで、どこの大学の入試だと思いますか。正解は、大阪大学です。適塾は、蘭学者・医者として知られる緒方洪庵が江戸時代後期に大坂に開いた蘭学の私塾で、大阪大学のルーツの1つとされています。

適塾では、塾生たちは医学・物理・化学などの蔵書を解説しながら勉強を進めていました。ちなみに蔵書はオランダ語で書かれています。解説するためには辞典が必要ですが、「ゾーフ」（ゾーフ編オランダ日本語辞典）と呼ばれていた辞典は塾に1冊しかなく、塾生たちは辞典を奪い合って勉強していたと言われています。

適塾は25年間続きますが、その間、およそ3000人の入門生があったと伝えられています。その中には、日本赤十字社の佐野常民、アドレナリンを発見した高峰讓吉、安政の大獄で処刑された橋本左内など、幕末から明治時代にかけて活躍した人材がたくさん輩出しています。啓蒙思想家であり慶應義塾大学を創設した福沢諭吉もその一人です。

1855年に福沢諭吉は20歳で適塾に入門しています。それまで長崎で蘭学を学んでいましたが、その後、学びを深めるために大坂に向かいます。福沢諭吉はどんな思いで大坂に向かったのでしょうか。たぶん、新しい学びに対する期待感で胸が一杯だったと思います。しかし、大坂に着いて腸チフスという病気に罹ってしまいます。危ない命を救ったのが緒方洪庵です。その縁で福沢諭吉は適塾に入門することになります。

福沢諭吉の自伝に『福翁自伝』があります。適塾時代の生活も書かれています。こんなエピソードがあります。

病気になって、座布団を丸めて枕にして寝ていたのですが、その後、体調がよくなり普通の枕で休みたいと考えました。しかし、どんなに枕を捜しても見つかりません。そこであらためて気づいたことがあります。それまで普通の枕で休んでいなかったことです。眠くなったら机の上でうつ伏せの状態でご寝たり、床の間の柱を枕にしていました。当時の適塾の塾生たちの学びに対する姿勢を伺い知ることができます。

ただし、当時は蘭学が特に必要とされていたわけではありませんでした。オランダ語に対するニーズはほとんどありませんでした。江戸に出れば、それでも幕府の役人になる道がありましたが、大坂ではオランダ語やオランダについて知識をもっても何の役にもたちません。当時の塾生たちの学びについて、福沢諭吉は、『福翁自伝』の中で次のように記しています。

前途自分の身体は如何なるであろうかと考えたこともなければ、名を求める気もない。名を求めぬことか、蘭学書生といえは世間に悪く言われるばかりで、既に已に焼けに成っている。ただ昼夜苦しんで六かしい原書を読んで面白がっているようなもので、実にわけのわからぬ身の有様とは申しながら、一步を進めて当時の書生の心の底を叩いてみれば、おのずから楽しみがある。これを一言すれば西洋日進の書を読むことは日本国中の人に出来ないことだ、自分たちの仲間に限って斯様なことが出

来る、貧乏をしても難渋をしても、粗衣粗食、一見見る影もない貧書生でありながら、智力思想の活発高尚なることは王侯貴人も眼下に見下すという気位で、ただ六かしなければ面白い、苦中有楽、苦即楽という境遇であったと思われる。たとえばこの薬は何に利くか知らぬけれども自分たちより外にこんな苦しい薬を呑む者はなかるうという見識で、病の在るところも問わずに、ただ苦ければもっと呑んでやるというくらいの血気であったに違いはない。

学んでいたらもっと新しいことが学びたくなくなって止まらなくなったというようなことかと思えます。また、学ぶ目的について次のように記しています。

兎に角に当時緒方の書生は、十中の七、八、目的なしに苦学した者であるがその目的のなかったのが却って仕合で、江戸の書生よりも能く勉強が出来たのであろう。それから考えてみると、今日の書生にしても余り学問を勉強すると同時に始終我身の行く先ばかり考えているようでは、修業は出来なからうと思う。さればとって、ただ迂闊に本ばかり見ているのは最も宜しくない。宜しくないとはいいいながら、また始終今もいう通り自分の身の行く末のみ考えて、如何したら立身が出来たろうか、如何したら金が手に這入るだろうか、立派な家に住むことが出来るだろうか、如何すれば旨い物を食い好い着物を着られるだろうか、というようなことにばかり心を引かれて、齷齪(あくせく)勉強するということでは、決して真の勉強は出来ないだろうと思う。就学勉強中はおのずから静かにして居らなければならぬ、という理屈がここに出て来ようと思う。

皆さんは今紹介したエピソードからどんなことを考えてくれましたか。私は2つ考えたことがあります。

1つは、学びは本来、純粹なものであること。そして、楽しむものであること。楽しむことができれば勉強ができるようになること。もう1つは、若い頃は、がむしゃらに頑張る必要があることです。結果はどうであれ、がむしゃらに頑張った経験は後に大きな力になります。

今日から後期が始まります。最後は、各学年のみなさんに期待したいことです。

まずは、3年生。大学入学共通テストまであと残すところ103日となりました。これから、どんどんライバルたちが自ら脱落していきます。みんな程度の差はあれ不安をかかえています。強い気持ちをもって入試まで努力してください。

続いて、2年生。高校生活も折り返しの時期を迎えました。この学年から大学入試が大きく変わります。考えている志望が本気の志望になるよう、それに見合うだけの志望校の研究、そして、日々の学習の積み重ねが求められます。また、この段階で遅れている人は、この段階でしっかり修正すれば間に合います。しっかり努力してください。

最後に1年生。高校生活にも慣れてきたと思います。合格した時、そして、入学した時の気持ちや決意をもう一度思い出してください。

「10月駿台全国模試」について（1・2年生）

10月17日（土）に、以下の日程で、「駿台全国模試」を行います。

〔1年生〕

英 語	8 : 40	～	10 : 20	(100分)	(リスニングテストを含む)
国 語	10 : 30	～	12 : 10	(100分)	
数 学	12 : 30	～	14 : 10	(100分)	
自己採点	14 : 10	～			

〔2年生〕

国 語	8 : 40	～	10 : 20	(100分)	
数 学	10 : 30	～	12 : 10	(100分)	
英 語	12 : 30	～	14 : 10	(100分)	(リスニングテストを含む)
自己採点	14 : 10	～			

なお、当日、やむを得ず欠席される場合は、進路指導部（082-224-4668）に連絡をお願いいたします。

終わりに

「進路指導室から」の発行が300号に到達しました。第1号の発行が、平成27年4月15日です。あれからちょうど5年半が経過しました。これからも少しずつ積み重ねていけたらと思っています。よろしく願いいたします。

(文責：進路指導部 池本 邦彦)